

# あした咲く



舞羽 美海      岩佐 真悠子  
大沼 百合子      窪塚 俊介      螢 雪次朗

## 企画のねらい

### 「女性の人権」—ともに輝ける社会をめざして—

「女性が輝く社会」の実現に向けて、平成27年8月の「女性活躍推進法」成立をはじめ、これまで様々な取り組みが進められてきました。しかし、現状は、職場や地域における女性の能力発揮のための環境整備や意識改革は必ずしも十分ではなく、また、女性の家事、育児、介護における負担も多い状況にあります。さらに、ドメスティック・バイオレンス(言葉の暴力を含む)やハラスメントなどの女性に対する人権侵害も生じています。これらの問題は、女性が輝いて生きるための大きな障壁となっています。

このため、私たち一人一人が、このような課題に目を向け、性別に関わらず

その個性と能力を十分に発揮し、ともに輝ける共生社会をめざしていかなければなりません。

この作品には、生き方の異なる姉妹が登場します。独身会社員の妹・茜と、専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹での対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。

「幸せ」の形は十人十色です。自分で自分の生き方を選択し、女性はもちろん全ての人が「自分の花」をイキイキと咲かせることのできる、多様性尊重社会。その実現をめざすきっかけとなる人権啓発ドラマです。

企 画／兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会  
企画協力／兵庫県教育委員会  
制 作／東映株式会社

■上映時間 36分    本体価格 80,000円(税抜)  
DVD…字幕副音声版    [C#6051]





外食チェーンのお客様相談室で働く風間茜は、父の稔と二人暮らし。ある日、東京で専業主婦をしている茜の姉の翠が、娘の葵を連れて突然帰ってきた。家事と子育ての大変さを語る翠に対し、「専業主婦はまだ気楽でしょ」と口走る茜。その言葉をきっかけに二人は口論、風間家に気まずい空気が流れる。

翌日、お客様相談室では、子連れの客を非難する投書が話題に。また、産休直前の課長・玉城愛子が病院に寄ってから来ることを受けて、室長の糸島洋治は辛辣な態度。会社の制度は整っていても、平気でハラスメント発言をする上司に呆れる茜。



翠を息抜きさせるために、稔は葵を預り公園へ。そこで子どもの扱いに長けた青年・立花真澄と出会う。立花は二年前に亡くなった稔の妻・多佳子と一緒に園芸ボランティアをしていたという。稔は、立花が最近スタートさせた「まちの子育てひろば」のチラシを受け取る。

休日。わだかまりを払拭すべく、茜は翠を誘って外出し、話を聞き出す。翠は家事に非協力的な夫・健太郎からの心無い言葉に深く傷つき、家を出てきた。自分にはない視点を持つ翠の話聞いて、視野の狭さを痛感する茜。二人が帰宅すると葵が健太郎に電話をかけていた。娘にも辛い思いをさせていたことに気づき、ショックを受ける翠。



明るくて大らかだった母のようにはなれないと落ち込む翠に、稔は保管していた離婚届を見せる。仕事人間だった稔の自分勝手な言葉に傷ついた多佳子はかつて離婚を考えたことがあったというのだ。母も一人で悩んでいたことを初めて知る茜と翠。

葵の提案で、立花のいる「まちの子育てひろば」を訪れる茜たち。立花は自分がLGBTであることを告げ、多佳子に声をかけてもらったことで、地域に溶け込むことができたと言います。



翠と稔との対話や、地域の活動に触れたことで、自分の視野の広がりを実感した茜は、会社に新たな提案をする決意をする。そして、翠もまた夫と向き合うために行動を起こして…。

学習のねらい

- すべての人が、性別に関わりなく、互いに人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を十分に発揮できる共生社会をめざすために、私たちが日常生活の中で心がけることを考える。
- 子どもの育成のために地域として、より一層安心して子育てできる環境づくりをするために必要なことについて考える。
- 多様性を尊重し、互いに人間としての共通性を再認識し、排除せずに人と人とのつながりの大切さについて考える。